

公益社団法人日本技術士会 C P D 行事 報告書

開始日時	2026 年 7 月 11 日 (土)	15 時 40 分
終了日時	2025 年 7 月 11 日 (土)	16 時 40 分
名称	第 164 回年次大会特別講演会 (ハイブリッド)	
主催者	公益社団法人日本技術士会 千葉県支部	
開催場所	TKP 千葉駅東口ビジネスセンター カンファレンスルーム 4F	
行事内容	特別講演:「新しいデータ連携基盤のインパクト」～総合エンジニアリングの時代と技術士会への期待～ 講演者:日本経営工学会 副会長、株式会社野村総合研究所 シニアチーフストラテジスト 藤野 直明様	
参加人数	参加者総数 69名 (会場参加 43名、ZOOM参加 26名) 内準会員 3 名	

7 月 11 日 (土) 日本技術士会千葉県支部 令和 8 年年次大会後、第 164 回 CPD 特別講演会 (ハイブリッド方式) が開催されました。ご講演の概要は以下のとおりです。

本講演では、AI を駆動する「21 世紀の石油」としてのデータの重要性と、欧米を中心に急速に整備が進む企業間データ連携基盤 (Gaia-X、Catena-X 等) がもたらす産業構造の抜本的変革について詳述された。

講演の核となる概念は「総合エンジニアリング」への回帰です。従来のモノづくり (部門や専門領域への閉じこもり) から脱却し、アセット管理シェル (AAS) やデジタルツイン技術を活用して、人工物のライフサイクル全体 (設計・製造から運用・保守、解体、社会実装まで) を横断的にマネジメントする実力の獲得が提唱されました。具体的には、航空産業の「Skywise」や自動車産業の「Catena-X」といった事例に見られるように、産業の壁を越えてデータと価値が循環する「7 つのクロスセクター・エコシステム」が既に顕在化しています。

また、同氏は、かつての日本の優れた現場力や「カイゼン」、トヨタ生産方式 (TPS) などの知恵が、欧米によって「システムアーキテクチャ」として再定義・抽象化され、現在「最先端の輸入学問」として日本に逆輸入されている皮肉な現状を指摘されました。

日本がこの「逆輸入の罠」を打破し、再び国際競争力を高めるためには、物理的な現場 (物理的同期) と財務・経営 (財務的意思決定) をデータ連携基盤によってデジタルツイン上で直結させる、新たなオペレーションモデルへの刷新が不可欠であると喝破されました。

最後に、技術士への期待として、個別の専門部門や組織の都合による「部分最適」に陥ることなく、「技術士倫理綱領第 1 条 (公衆の安全、健康及び福利を最優先にする)」に基づき、持続可能で「全体最適の社会システム」を死守するプロとしての矜持を強く求められました。21 の専門部門を擁する日本技術士会こそが、世界に抗しうる日本の「集合知プラットフォーム」を構築する拠点となり、日本の産業システムを再デザインしていくべきであるとの提言で結ばれました。また、技術士部門の中でも、今後若い人には「経営工学部門」の受験・取得を目指すよう併せて強調されました。

ご講演と貴重なご提言をいただきました藤野先生に感謝申し上げます。



講演会場



藤野 直明先生